

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 中手指節関節周囲骨折における外固定の評価 』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 整形外科 職位・氏名 教授 池上 博泰

【試料・情報の利用目的】

2000年4月～2023年10月までに東邦大学医療センター大橋病院 整形外科において、中手指節関節周囲骨折(基節骨基部骨折・中手骨遠位部骨折)の診断で保存加療(手術を行わなかった)を施行した方で1ヶ月以上通院された方おおよそ200名程度を対象とします。

取得した試料・情報は中手指節関節周囲骨折における外固定の評価の評価をすることを目的とした研究に利用します。中手指節関節とは指の付け根の部分の関節のことを言います。この関節周囲の骨折は手術をしない治療方法として、できる限り屈曲60-90°でのギプス等の固定(外固定)が推奨されますが、固定の種類や方法は定まっておらず、うまく固定できていない(屈曲60°未満)ことが多いです。どのような素材の外固定でどのように固定した症例がうまく固定できているかを評価するのが本研究の目的です。

この研究で得られる成果は、治療成績の向上につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報:病歴、診療の治療歴、副作用等の発生状況、個人情報 画像検査 等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年1月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当せず

【試料・情報の取得方法】

対象者:2000年4月～2023年10月までに東邦大学医療センター大橋病院 整形外科において、中手指節関節周囲骨折(基節骨基部骨折・中手骨遠位部骨折)の診断で保存加療を施行し1ヶ月以上通院された方おおよそ200名程度

方法:診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。レントゲン検査から保存加療で行った外固定による中手指節関節の屈曲角度、固定方法、固定材料を評価します。1,3,6,12ヶ月で評価したものを使用する。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 池上博泰 役職: 教授

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院/整形外科 池上博泰

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年2月29日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。代諾者でも可能です。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 整形外科

職位・氏名 教授 池上博泰

電話 03-3468-1251 内線 2032